

第2学年〇組 算数科学習指導案

平成27年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 単 元

2 単元の目標

- (1) 加減の筆算について関心をもち、身近な問題解決に生かそうとする。
- (2) (2桁) ± (2桁) < 100 の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考えることができる。
文章問題の数量関係をテープ図を使って表すことができる。
- (3) (2桁) ± (2桁) の筆算と答えの確かめができる。
- (4) (2桁) ± (2桁) < 100 の筆算と答えの確かめの仕方を理解することができる。テープ図のかき方を理解することができる。

3 学習の計画 (10時間完了)

- 第1次 第1時 (2桁) + (2桁) の筆算による計算の仕方を考える。
- 第2次 第2時(本時) (2桁) + (2桁) で一の位が繰り上がる筆算をする。
第3時 加法の答えの確かめをする。
第4時 加法の筆算の練習問題に取り組む。
- 第3次 第5時～第8時 (2桁) - (2桁) の筆算をする。
- 第4次 第9時 文章問題の数量関係をテープ図を使って表す。
- 第5次 第10時 単元を振り返り、確認問題に取り組む。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 一の位が繰り上がる(2桁) + (2桁) の筆算の仕方を考えることができる。
 - 一の位が繰り上がる加法の仕方を理解し、その計算を筆算ですることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……計算棒
 - 教師……掲示用計算棒、数字カード
- (3) 関 連
 - 1年 算数 たしざん(2)ひきざん(2) ((1桁) + (1桁) > 10 のたし算とその逆のひき算)
 - 2年 算数 たしざんとひきざん(2桁と1桁のたし算とひき算)
 - 3年 算数 たし算とひき算の筆算(3桁と3桁のたし算とひき算の筆算)
- (4) 学習過程

| 段階 | 学 習 活 動 | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項 |
|--------|---|----|---|
| 課題をつかむ | 1 本時の学習課題について考える。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 ○34+12の計算を筆算でする。 (2) 本時の学習課題をつかむ。 ○34+28の計算を考える。 一のくらいをたしたら、10より大きくなるたし算を考えよう。 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○前時に学習した繰り上がりのない筆算を基にして、一の位どうしから順にたしていくことを確認する。 ○本時の学習課題を提示し、繰り上がりのなかった前時との違いを見つけさせる。 ○具体的な場面をいくつか提示し、計算の必要性を実感させる。 |
| 解決する | 2 繰り上がりのある筆算の仕方を解決する。 (1) 計算棒を操作して、繰り上がりの仕組みをつかむ。 ・一の位と一の位をたすと、十のまとまりが1つ増えたので、十の位に移動させる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○掲示用の計算棒で繰り上がりの操作を示し、児童にも同じように操作させ、繰り上がったことによって十のまとまりが1つ増えていることをつかむようにさせる。 |

| 解 決 す る | (2) 繰り上がりの仕組みを基に、筆算の仕方を考える。 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ○繰り上がりの「1」をどこにかけばよいかを計算棒で操作したことを基に考えさせる。 ○Cの方法で考えた児童には、筆算では同じ位の数を縦に並べてかくこと、十のまとまりが1つ増えたこと、答えが違っていることなどを助言する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|-------|---|---|---|---|--|--|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------------------|
| | <p>予想される児童のかき方</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">A</th> <th style="text-align: center;">B</th> <th style="text-align: center;">C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 4</td> <td style="text-align: center;">3 4</td> <td style="text-align: center;">3 4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">+ 2 8</td> <td style="text-align: center;">+ 2 8</td> <td style="text-align: center;">+ 2 8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">-----</td> <td style="text-align: center;">-----</td> <td style="text-align: center;">-----</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 2</td> <td style="text-align: center;">6¹ 2</td> <td style="text-align: center;">5 1 2</td> </tr> </tbody> </table> | | A | B | C | 1 | | | 3 4 | 3 4 | 3 4 | + 2 8 | + 2 8 | + 2 8 | ----- | ----- | ----- | 6 2 | 6 ¹ 2 |
| A | B | C | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 4 | 3 4 | 3 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| + 2 8 | + 2 8 | + 2 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ----- | ----- | ----- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 2 | 6 ¹ 2 | 5 1 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 深 め る | (3) お互いに自分の考えた計算の仕方を発表する。 ・繰り上がりの「1」を(どこ)にかきました。その理由は、(理由)だからです。 | 30 | <p>評一の位が繰り上がる2桁の加法の筆算の仕方を説明している。(発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十の位に「1」繰り上げることを強調する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (4) 繰り上がりのある筆算の仕方を発表し、まとめる。 ・繰り上がった「1」を十の位の一番上にかいておいて、十の位に加えること | | <ul style="list-style-type: none"> ○理解が不十分な児童には、計算の仕方を唱えながら行わせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ま と め る | (5) 筆算の計算の仕方を言葉で唱える。 | 40 | <p>評一の位が繰り上がる2桁の加法を筆算で正しく計算している。(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○繰り上がることによって新たに10のまとまりができることを中心に本時を振り返らせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 繰り上がりのある筆算の仕方を、問題を解いて練習する。 | | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 本時のまとめをする。 ○繰り上がりのある筆算の仕方を振り返ってまとめをする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(5) 本時の評価規準

- 一の位が繰り上がる(2桁) + (2桁)の筆算の仕方を、計算棒の操作を基にしながら考えてかいている。(ノート)
- 一の位が繰り上がる2桁の加法の筆算の仕方を説明し、正しく計算している。(発表、ノート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 計算問題のように決められた手順に従って答えをだすという活動は、好きな児童が多い。しかし、なぜそうなるのかを深く考えずに形式的な操作で答えだけを求める傾向が強い。

(2) 指導の力点

- 本時は、一の位が繰り上がる2桁の加法の仕組みを計算棒の操作によってつかませ、それを筆算の形でどのようにかけばよいかを考えさせることで、筆算の仕方を身に付けさせる。計算の意味を考えずに、形式的な操作で答えを出すことが多い児童に対し、操作活動によって計算の意味をつかませ、問題を解決させる。そこから、十進位取り記数法の考え方をを使って筆算ができるように指導する。

6 指導と評価